

京都首都機能バックアップ方策検討委員会中間まとめ（案）

1 はじめに

- ・ 東日本大震災の教訓から、首都機能バックアップの確保の重要性が改めて強く認識されたところ。
- ・ 国においても、本年4月、「東京圏の中核機能のバックアップに関する検討会」の第二次とりまとめを公表。
- ・ 関西広域連合においても、「首都機能バックアップ構造の構築に関する提言」をとりまとめ。今年度、首都機能バックアップに関する調査研究を行うこととされている。
- ・ これらの状況を踏まえ、京都においても、国全体の安心確保の観点から、首都機能バックアップについて京都が果たすべき機能・役割を検討するもの。

2 検討のフレーム

(1) 基本とする前提条件

- ・ 首都機能に関西全体で分担してバックアップ。
- ・ バックアップに当たっては、できる限り既存機能・施設を活用するが、都市の発展可能性についても考慮する。
- ・ その際、京都においては京都市中心部、桂イノベーションパーク、らくなん進都及び学研都市の4つのエリアの機能・施設について対象とする。

(2) 「バックアップ」の定義

- ・ 災害発生後、首都機能を一定期間代替。
- ・ ただし、特定の機能については、平時より恒久的に機能移転を図ることも含む。（被害が長期にわたる事態も想定する必要。有事に避難できない、毀損してはいけないもの、移動できないものについて平時からのバックアップが必要）

(3) 検討の目標

- ・ 京都府内の既存機能・施設の活用方策と、担うことができるバックアップ機能を検討。
- ・ さらに、関西の既存機能・施設では代替できないが、東京圏の中核機能を継続させるために不可欠な施設の新規整備の必要性についても検討。

3 基本的な視点

(1) 京都の地域的優位性

- ・ 首都圏と同時被災する可能性が低い。
- ・ 古くから交通の結節点・要所としての特性をもつ。
- ・ 文化都市としての京都市域だけでなく、学研都市においては、関西のおよそ中央部に位置し、危機管理都市、バックアップ都市として発展可能性（既成都市でなく十分な用地確保が可能）があり、平時の研究開発機能があるなど、活用可能性が高いと認められる。

(2) 機能の検討方向

- ・ 既存機能・施設について、

- ① 施設としてのキャパシティではなく、施設の機能に着目して活用できるものは活用。
- ② 施設によっては、現在の機能を停止し、何らかの機能をバックアップ。
その上で、
- ③ 上記以外に必要な機能については、新規の整備を検討。
(中枢機能が継続できるよう、一つが停止してももう一つがバックアップする複線機能を整備する視点及び一極集中を見直す視点で検討(バックアップ都市の機能構築))

4 首都機能バックアップ：京都からの5つの提案

(1) 皇室の方々の京都居住の実現

- ▶ 日本の精神的支柱である皇室の安心・安全と永続を実現するため、京都御所や京都迎賓館を擁し、日本人の心のふるさとである京都の地に、皇室の方々に随時お越しいただき、可能な限りお住まいいただく。
- ▶ 具体的には、皇室の方々の住まいをはじめとして、京都において御活動いただけるよう、必要な環境整備を図る。

(2) 文化財アーカイブセンターの整備

- ▶ 首都圏をはじめ全国の文化財(建造物)が被災・損傷した際に、元の姿に復元するための機能を備えた文化財アーカイブセンターを整備する。
- ▶ 具体的には、全国の文化財(建造物)に関する詳細なデータを作成し、安全に保管するとともに、大学等と連携して復元のための技術や知識を備えた人材を育成する。

(3) 文化庁、観光庁の移転

- ▶ 首都圏が壊滅的な被害を受けた際に、国の中枢機能が一斉に麻痺するような事態をできる限り回避するために、東京に一極集中した政治・行政機関の一部をあらかじめ首都圏外に移転する。
- ▶ 具体的には、名実ともに日本文化の中心地であり、国際的な観光地でもある京都に文化庁並びに観光庁を移転し、東京一極集中の是正と現地現場に密着した文化行政、観光行政の一層の拡充を図る。

(4) 国立京都国際会館等の機能強化

- ▶ 国立京都国際会館について、世界トップレベルの国際会議場施設として大会議場や展示場等を整備する。
- ▶ さらに、国立の施設等について、有事の際には首都圏等の機能を代替し、あるいは、国会機能や首相官邸機能など国の中枢機能等を受け入れるため多目的に活用する。
- ▶ 国立国会図書館関西館と本館とのデータ複製・共有、並びに国立公文書館のデータの複製を進め、有事の際の歴史資料、重要資料等の毀損、滅失を防ぐ。

(5) リニア中央新幹線の京都ルート実現

- ▶ 歴史的にも日本の交通の要衝である京都を通過するルートに、国の百年の計として、高速の交通基盤を整備し、東海道新幹線の代替としてのリダンダンシーを高める。また、有事の際に首都圏と京都との間を移動する人々を安全かつ迅速に輸送する。

- ▶ 具体的には、リニア中央新幹線の停車駅を、京都及び滋賀、大阪、奈良等関西における交通の結節点である京都に設置する。

5 引き続き検討すべき事項

(6) 危機管理センターのデュアル設置について

【主な内容・機能等】

- ▶ 有事の際に迅速な救助・救援、復旧・復興対策等の指揮を執る危機管理センターを首都圏に整備するとともに、首都圏の大規模被災時にバックアップするサブセンターを京都に整備する。
- ▶ 平時には、様々な分野におけるバックアップのあり方等について研究を行い、危機管理に当たる専任スタッフやバックアップ研究を行う研究員等を養成する。

(7) 外交機能のバックアップの充実・強化について

【主な内容・機能等】

- ▶ 災害等で首都圏から避難してくる外国の大使館員等を、京都のほか大阪、神戸が連携して支援する。